

成蹊大学大学院理工学研究科規則

制 定 2009年3月27日
学 園 理 事 会
最新改正 2019年3月15日
常 務 理 事 会

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学大学院学則（以下「学則」という。）に基づき、理工学研究科（以下「本研究科」という。）における学則実施上の必要な事項を定める。

(本研究科における教育研究上の目的)

第2条 本研究科の理工学専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 博士前期課程 理工学の分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくための広い視野と深い知識の修得及び研究能力の涵養により、高度な専門知識をもって社会に貢献できる技術者又は将来の研究者を養成することを目的とする。
- (2) 博士後期課程 理工学の分野において、高い倫理観と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者を養成することを目的とする。

(理工学専攻におけるコースの設置及び各コースの目的)

第3条 理工学専攻に、次に掲げるコースを置き、各コースの目的については、当該各号に掲げるとおりとする。

- (1) 博士前期課程
 - ア 物質生命コース
物質・ナノサイエンス、化学・ライフサイエンス、環境・エネルギー各分野の基礎知識と基礎技術を幅広く修得し、新たな科学技術の創造に挑む技術者を養成すること又は研究者の素養を涵養することを目的とする。
 - イ 情報科学コース
システムソフトウェア・ネットワーク分野、メディア技術分野、さらには情報数理分野を含む多様な情報科学の分野において、幅広い知識の修得と高度な研究手法の獲得により革新的科学技術の創造に挑む先導的な情報関連技術者を養成すること又は研究者の素養を涵養することを目的とする。
 - ウ システムデザインコース
機械工学・電気電子工学・経営工学を融合したものづくり技術の分野において、創造性豊かな優れた研究・開発を行っていくための深い知識の修得及び研究・開発能力の涵養により、高度な専門知識と高い倫理観をもって社会に貢献できる技術者又は研究者を養成することを目的とする。
- (2) 博士後期課程
 - ア 物質生命コース
物質・ナノサイエンス、化学・ライフサイエンス、環境・エネルギー分野において、多元的な視点をもって革新的科学技術の創造に挑む研究者を養成することを目的とする。
 - イ 情報科学コース
システムソフトウェア・ネットワーク分野、メディア技術分野、さらには情報数理分野を含む多様な情報科学の分野において、多元的な視点で先導的な立場に立ち、高い倫理観を持つ発想豊かな研究者を養成することを目的とする。
 - ウ システムデザインコース
機械工学・電気電子工学・経営工学を融合したものづくり技術の分野において、創造性豊かな優れた研究・開発を行っていくための深い知識の修得及び研究・開発能力の涵養により、高度な専門知識と高い倫理観をもって社会に貢献できる研究者を養成することを目的とする。

(教育課程及び研究指導)

第4条 前2条に掲げる目的を達成するために必要な本研究科の授業科目及び単位数並びに必修・選択の区分は、別表第1に定めるとおりする。

2 本研究科における授業科目の履修の方法及び学位論文の作成又は特定の課題についての研究（以下「特定課題研究」という。）に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画については、別に定める。

（他大学院等における履修及び修得単位）

第5条 研究科長が教育研究上有益であると認めるときは、学生は、他研究科又は他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により修得した単位は、第14条又は第15条第1項に規定する修了に必要な修得単位数のうち選択科目の単位として、10単位以内に限り本研究科において修得したものとみなすことができる。

（入学前の既修得単位の認定）

第6条 研究科長が教育研究上有益であると認めるときは、学生が本研究科に入学する前に大学院（外国の大学の大学院を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本研究科において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、転入学及び再入学の場合を除き、本研究科において修得した単位以外のものについては、10単位以内に限り、第14条又は第15条第1項に規定する修了に必要な修得単位数のうち、選択科目の単位として算入することができる。

（指導教授）

第7条 研究科長は、博士前期課程及び博士後期課程に入学した学生の指導教授（主担当指導教授及び副担当指導教授をいう。以下同じ。）を定めるものとする。

2 指導教授は、学則第9条第2項の規定に基づき、指導する学生の研究指導計画を策定し、研究科長の承認を得るものとする。

（履修計画）

第8条 学生は、前条第2項の研究指導計画に基づき、別表に定める授業科目を計画的かつ体系的に履修しなければならない。

2 学生は、授業科目の履修に当たり、学期の始めにおいて所定の様式により申請しなければならない。

（単位の認定）

第9条 単位修得の認定は、筆記試験若しくは口述試験又は研究報告等により、当該科目担当教員が行う。

（単位の認定の時期）

第10条 前条に規定する単位の認定は、授業科目の履修が終了する学年又は学期の末において行う。ただし、研究科長が特別の事情があると認めるときは、期日を変更することができる。

（転学者の単位の認定）

第11条 他大学の大学院から転入学した学生が当該大学院で修得した単位は、別に定める基準により、第14条又は第15条第1項に規定する修了に必要な修得単位数のうち、選択科目の単位として認定することができる。

（単位認定科目の成績評価）

第12条 第5条、第6条及び前条の規定により認定する授業科目の成績評価は、学則第11条の2の規定により、Tと表示する。ただし、研究科長が特に必要と認めるときは、この限りでない。

（学位論文等の提出）

第13条 学位論文又は特定課題研究の成果は、指導教授の承認を得て、所定の期日までに提出しなければならない。

2 所属専攻の授業科目について20単位以上を修得した者でなければ、修士論文又は特定課題研究の成果を提出することができない。

（博士前期課程の修了要件）

第14条 博士前期課程の修了要件は、博士前期課程に2年以上在学し、別表第2に定める修了に必要な修得単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定課題研究の成果の審査

及び最終試験に合格することとする。

(博士前期課程の早期修了)

第14条の2 前条の規定にかかわらず、博士前期課程において所定の単位を修得し、学業成績及び修士論文が特に優れていると認められる者については、学則第13条第1項ただし書の規定により、1年の在学期間をもって早期に修了することができる。

2 前項に規定する修了に関し必要な事項は、別に定める。

(博士後期課程の修了要件)

第15条 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、別表第3に定める修了に必要な修得単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

2 前項の場合において、研究科長が教育研究上有益であると認めるときは、博士後期課程の学生が博士前期課程において当該課程の修了に要する単位を超えて修得した単位を、10単位以内に限り前項に規定する単位として算入することができる。

(組織的な研修及び研究を行うための委員会)

第16条 本研究科に、学則第8条の2の規定に基づき、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図ることを目的として組織的な研修及び研究を行うための委員会を置く。

2 前項に規定する委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (2009年3月27日制定、2008年7月25日文部科学省設置届出)

この規則は、2009年4月1日から施行する。

附 則 (2010年3月12日一部改正)

この規則は、2010年4月1日から施行する。

附 則 (2011年3月11日一部改正)

この規則は、2011年4月1日から施行する。

附 則 (2012年3月9日一部改正)

この規則は、2012年4月1日から施行する。

附 則 (2013年3月8日一部改正)

この規則は、2013年4月1日から施行する。

附 則 (2014年3月7日一部改正)

1 この規則は、2014年4月1日から施行する。

2 改正後の別表の規定は、2014年度以降の入学者から適用し、2013年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (2015年3月6日一部改正)

1 この規則は、2015年4月1日から施行する。

2 改正後の第3条及び別表第1の規定は、2015年度以降の入学者から適用し、2014年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表第1に規定する次に掲げる授業科目は、2014年度以前の入学者についても適用する。

(1) 第1項の表物質生命コース物質・ナノサイエンス分野の項中「薄膜物性特論Ⅰ」及び「薄膜物性特論Ⅱ」、環境・エネルギー分野の項中「計測データ解析特論Ⅰ」及び「計測データ解析特論Ⅱ」並びにエレクトロメカニクスコース生産技術・人間工学・経営工学分野の項中「ヒューマンファクターズ特論Ⅰ」及び「ヒューマンファクターズ特論Ⅱ」。

(2) 第2項の表物質生命コース環境・エネルギー分野の項中「計測データ解析特論Ⅲ」及び「計測データ解析特論Ⅳ」並びにエレクトロメカニクスコース電気・電子分野の項中「電力・エネルギー特論Ⅲ」及び「電力・エネルギー特論Ⅳ」。

附 則 (2016年1月22日一部改正)

1 この規則は、2016年4月1日から施行する。

2 改正後の第3条及び別表第1の規定は、2016年度以降の入学者から適用し、2015年度以前の入学者については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表第1に規定する次に掲げる授業科目は、2015年度以前の入

学者についても適用する。

- (1) 第1項の表物質生命コース化学・ライフサイエンス分野の項中「生体分子化学特論Ⅰ」及び「生体分子化学特論Ⅱ」並びに情報科学コースメディア技術分野の項中「音声情報特論Ⅰ」及び「音声情報特論Ⅱ」、情報数理分野の項中「コンピューテーション特論Ⅰ」及び「コンピューテーション特論Ⅱ」並びにシステムデザインコース電気・電子分野の項中「プラズマエネルギーデザイン特論Ⅰ」及び「プラズマエネルギーデザイン特論Ⅱ」。
 - (2) 第2項の表物質生命コース化学・ライフサイエンス分野の項中「生体分子化学特論Ⅲ」及び「生体分子化学特論Ⅳ」並びに環境・エネルギー分野の項中「環境工学特論Ⅲ」及び「環境工学特論Ⅳ」並びにエレクトロメカニクスコース電気・電子分野の項中「プラズマエネルギーデザイン特論Ⅲ」及び「プラズマエネルギーデザイン特論Ⅳ」。
- 4 前項第1号に掲げる科目が属する分野において、「メディア技術分野」及び「情報数理分野」とあるのは、2015年度以前の入学者については、「ソフトウェア・アプリケーション分野」及び「数理・経営科学・計算科学分野」と読み替えるものとする。

附 則 (2017年1月13日一部改正)

- 1 この規則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 2015年度以前の入学者については、改正後の別表第1第2項表情報科学コースの項に規定する分野にかかわらず、「プログラム理論特論Ⅲ」、「プログラム理論特論Ⅳ」、「自然言語処理特論Ⅲ」、「自然言語処理特論Ⅳ」、「音声情報特論Ⅲ」及び「音声情報特論Ⅳ」はソフトウェア・アプリケーション分野の項に、「アルゴリズム特論Ⅲ」及び「アルゴリズム特論Ⅳ」は数理・経営科学・計算科学分野の項に属するものとする。

附 則 (2017年12月12日一部改正)

- 1 この規則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条及び別表第1の規定は、2018年度以降の入学者から適用し、2017年度以前の入学者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、改正後の別表第1に規定する次に掲げる授業科目は、2017年度以前の入学者についても適用する。
 - (1) 第1項の表物質生命コース化学・ライフサイエンス分野の項中「物性化学特論」並びにシステムデザインコース生産技術・人間工学・経営工学分野の項中「工作機械特論」、「生産システム特論Ⅰ」及び「生産システム特論Ⅱ」。
 - (2) 第2項の表物質生命コース物質・ナノサイエンス分野の項中「薄膜物性特論Ⅲ」及び「薄膜物性特論Ⅳ」並びに情報科学コース情報数理分野の項中「コンピューテーション特論Ⅲ」及び「コンピューテーション特論Ⅳ」。

附 則 (2018年3月15日一部改正)

- 1 この規則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1項の表専攻共通選択科目の項中「資源科学基礎論」及び物質生命コース化学・ライフサイエンス分野の項中「天然物応用化学特論」は、2017年度以前の入学者についても適用する。

附 則 (2018年12月14日一部改正)

- 1 この規則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第14条の2の規定は、2021年度以降の入学者から適用する。

附 則 (2019年3月15日一部改正)

- 1 この規則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1項の表物質生命コース環境・エネルギー分野の項中「電気化学特論Ⅰ」及び「電気化学特論Ⅱ」は、2017年度以前の入学者についても適用する。

別表第1 (第4条関係)

1 博士前期課程

科目区分		授業科目	配当 年次	単位数	
				必修	選択
専攻共通 選択科目		表現技術特論	1・2		2
		エンジニアリングデザイン	1・2		2
		実験計画法とデータ解析	1・2		2
		環境の科学と工学	1・2		2
		生命科学の最前線	1・2		2
		超高層大気物理学	1・2		2
		地球環境変動論	1・2		2
		資源科学基礎論	1・2		2
		インターンシップ実習	1・2		2
	学際分野	学際分野特殊研究	1・2		2

科目区分		授業科目	配当 年次	単位数		
				必修	選択	
物質 生命 コース	物質・ナノサイエンス分野	非線形現象特論Ⅰ	1・2		2	
		非線形現象特論Ⅱ	1・2		2	
		ナノ物性特論Ⅰ	1・2		2	
		ナノ物性特論Ⅱ	1・2		2	
		薄膜物性特論Ⅰ	1・2		2	
		薄膜物性特論Ⅱ	1・2		2	
		多次元システム特論Ⅰ	1・2		2	
		多次元システム特論Ⅱ	1・2		2	
		計測データ解析特論Ⅰ	1・2		2	
		計測データ解析特論Ⅱ	1・2		2	
		量子力学特論Ⅰ	1・2		2	
		量子力学特論Ⅱ	1・2		2	
		物質・ナノサイエンス特論	1・2		2	
		光エレクトロニクス特論	1・2		2	
		表面物性特論	1・2		2	
		化学計測特論	1・2		2	
		化学・ライフサイエンス分野	有機化学特論Ⅰ	1・2		2
			有機化学特論Ⅱ	1・2		2
			無機化学特論Ⅰ	1・2		2
	無機化学特論Ⅱ		1・2		2	
	天然物応用化学特論		1・2		2	
	生体分子化学特論Ⅰ		1・2		2	
	生体分子化学特論Ⅱ		1・2		2	
	生物化学特論Ⅰ		1・2		2	
	生物化学特論Ⅱ		1・2		2	
	物理有機化学特論		1・2		2	
	物性化学特論		1・2		2	
	化学・ライフサイエンス特論		1・2		2	
	環境・エネルギー分野	プロセスシステム特論Ⅰ	1・2		2	
		プロセスシステム特論Ⅱ	1・2		2	
		環境材料特論Ⅰ	1・2		2	
		環境材料特論Ⅱ	1・2		2	
		環境工学特論Ⅰ	1・2		2	
		環境工学特論Ⅱ	1・2		2	
		生体環境電気工学特論Ⅰ	1・2		2	
		生体環境電気工学特論Ⅱ	1・2		2	
		環境化学工学特論	1・2		2	
		電気化学特論Ⅰ	1・2		2	
		電気化学特論Ⅱ	1・2		2	
		必修科目	物質生命特別演習Ⅰ	1	3	
	物質生命特別演習Ⅱ		2	3		
	物質生命特別実験Ⅰ		1	3		
	物質生命特別実験Ⅱ		2	3		

科目区分		授業科目	配当 年次	単位数		
				必修	選択	
情報科学 コース	システムソフトウェア・ ネットワーク分野	コンピュータシステム特論Ⅰ	1・2		2	
		コンピュータシステム特論Ⅱ	1・2		2	
		ソフトウェア特論Ⅰ	1・2		2	
		ソフトウェア特論Ⅱ	1・2		2	
		プログラム理論特論Ⅰ	1・2		2	
		プログラム理論特論Ⅱ	1・2		2	
		通信工学特論Ⅰ	1・2		2	
		通信工学特論Ⅱ	1・2		2	
		情報通信ネットワーク特論Ⅰ	1・2		2	
		情報通信ネットワーク特論Ⅱ	1・2		2	
		ユビキタス工学特論	1・2		2	
		データベース特論	1・2		2	
		メディア技術分野	映像通信特論Ⅰ	1・2		2
	映像通信特論Ⅱ		1・2		2	
	知的インタフェース特論Ⅰ		1・2		2	
	知的インタフェース特論Ⅱ		1・2		2	
	イメージメディア特論Ⅰ		1・2		2	
	イメージメディア特論Ⅱ		1・2		2	
	自然言語処理特論Ⅰ		1・2		2	
	自然言語処理特論Ⅱ		1・2		2	
	音声情報特論Ⅰ		1・2		2	
	音声情報特論Ⅱ		1・2		2	
	情報数理分野	統計学特論Ⅰ	1・2		2	
		統計学特論Ⅱ	1・2		2	
		最適化特論Ⅰ	1・2		2	
		最適化特論Ⅱ	1・2		2	
		アルゴリズム特論Ⅰ	1・2		2	
		アルゴリズム特論Ⅱ	1・2		2	
		コンピューテーション特論Ⅰ	1・2		2	
		コンピューテーション特論Ⅱ	1・2		2	
		数値計算特論	1・2		2	
		オペレーションズリサーチ特論	1・2		2	
	システム分析特論	1・2		2		
	必修科目	情報科学特別演習Ⅰ		1	3	
		情報科学特別演習Ⅱ		2	3	
		情報科学特別実験Ⅰ		1	3	
		情報科学特別実験Ⅱ		2	3	

科目区分		授業科目	配当 年次	単位数	
				必修	選択
システム デザイン コース	選択 科目	電気・電子分野	電力・エネルギー特論Ⅰ	1・2	2
		電力・エネルギー特論Ⅱ	1・2	2	
		プラズマエネルギーデザイン特論Ⅰ	1・2	2	
		プラズマエネルギーデザイン特論Ⅱ	1・2	2	
		電子デバイス特論Ⅰ	1・2	2	
		電子デバイス特論Ⅱ	1・2	2	
		電力系統工学特論	1・2	2	
		表面物性特論	1・2	2	
		機械設計分野	振動音響学特論Ⅰ	1・2	2
		振動音響学特論Ⅱ	1・2	2	
		計算力学特論Ⅰ	1・2	2	
		計算力学特論Ⅱ	1・2	2	
		流体力学特論Ⅰ	1・2	2	
		流体力学特論Ⅱ	1・2	2	
		材料学特論Ⅰ	1・2	2	
		材料学特論Ⅱ	1・2	2	
		材料力学特論	1・2	2	
		熱工学特論	1・2	2	
		心理音響工学特論	1・2	2	
		機械設計法特論	1・2	2	
		ロボット・メカトロニクス分野	知能システム特論Ⅰ	1・2	2
		知能システム特論Ⅱ	1・2	2	
		ロボット工学特論Ⅰ	1・2	2	
		ロボット工学特論Ⅱ	1・2	2	
		メカトロニクス特論	1・2	2	
		制御工学特論	1・2	2	
		生産技術・人間工学・経営工学分野	工作機械特論	1・2	2
		人間工学特論Ⅰ	1・2	2	
	人間工学特論Ⅱ	1・2	2		
	経営工学特論Ⅰ	1・2	2		
	経営工学特論Ⅱ	1・2	2		
	ヒューマンファクターズ特論Ⅰ	1・2	2		
	ヒューマンファクターズ特論Ⅱ	1・2	2		
	生産システム特論Ⅰ	1・2	2		
	生産システム特論Ⅱ	1・2	2		
	福祉工学特論	1・2	2		
	ユーザビリティ工学特論	1・2	2		
	分野共通	システムデザイン特論Ⅰ	1・2	2	
	システムデザイン特論Ⅱ	1・2	2		
	応用数学特論Ⅰ	1・2	2		
	応用数学特論Ⅱ	1・2	2		
	必修科目	システムデザイン特別演習Ⅰ	1	3	
		システムデザイン特別演習Ⅱ	2	3	
		システムデザイン特別実験Ⅰ	1	3	
システムデザイン特別実験Ⅱ		2	3		

(注) 学際分野特殊研究は、8単位まで博士前期課程の修了に必要な修得単位数に算入することができる。

2 博士後期課程

科目区分		授業科目	配当年次	単位数		
				必修	選択	
物質生命コース	物質・ナノサイエンス分野	非線形現象特論Ⅲ	1・2・3		2	
		非線形現象特論Ⅳ	1・2・3		2	
		ナノ物性特論Ⅲ	1・2・3		2	
		ナノ物性特論Ⅳ	1・2・3		2	
		薄膜物性特論Ⅲ	1・2・3		2	
		薄膜物性特論Ⅳ	1・2・3		2	
		多次元システム特論Ⅲ	1・2・3		2	
		多次元システム特論Ⅳ	1・2・3		2	
		計測データ解析特論Ⅲ	1・2・3		2	
		計測データ解析特論Ⅳ	1・2・3		2	
	化学・ライフサイエンス分野	有機化学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		有機化学特論Ⅳ	1・2・3		2	
		無機化学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		無機化学特論Ⅳ	1・2・3		2	
		生体分子化学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		生体分子化学特論Ⅳ	1・2・3		2	
		生物化学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		生物化学特論Ⅳ	1・2・3		2	
	環境・エネルギー分野	環境材料特論Ⅲ	1・2・3		2	
		環境材料特論Ⅳ	1・2・3		2	
		環境工学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		環境工学特論Ⅳ	1・2・3		2	
		生体環境電気工学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		生体環境電気工学特論Ⅳ	1・2・3		2	
	必修科目	物質生命特別演習Ⅲ		1	3	
		物質生命特別演習Ⅳ		2	3	
		物質生命特別実験Ⅲ		1	3	
		物質生命特別実験Ⅳ		2	3	

科目区分		授業科目	配当年次	単位数		
				必修	選択	
情報科学コース	システムソフトウェア・ネットワーク分野	コンピュータシステム特論Ⅲ	1・2・3		2	
		コンピュータシステム特論Ⅳ	1・2・3		2	
		ソフトウェア特論Ⅲ	1・2・3		2	
		ソフトウェア特論Ⅳ	1・2・3		2	
		プログラム理論特論Ⅲ	1・2・3		2	
		プログラム理論特論Ⅳ	1・2・3		2	
		通信工学特論Ⅲ	1・2・3		2	
		通信工学特論Ⅳ	1・2・3		2	
		情報通信ネットワーク特論Ⅲ	1・2・3		2	
		情報通信ネットワーク特論Ⅳ	1・2・3		2	
	メディア技術分野	映像通信特論Ⅲ	1・2・3		2	
		映像通信特論Ⅳ	1・2・3		2	
		知的インタフェース特論Ⅲ	1・2・3		2	
		知的インタフェース特論Ⅳ	1・2・3		2	
		イメージメディア特論Ⅲ	1・2・3		2	
		イメージメディア特論Ⅳ	1・2・3		2	
		自然言語処理特論Ⅲ	1・2・3		2	
		自然言語処理特論Ⅳ	1・2・3		2	
		音声情報特論Ⅲ	1・2・3		2	
		音声情報特論Ⅳ	1・2・3		2	
	情報数理分野	最適化特論Ⅲ	1・2・3		2	
		最適化特論Ⅳ	1・2・3		2	
		アルゴリズム特論Ⅲ	1・2・3		2	
		アルゴリズム特論Ⅳ	1・2・3		2	
		コンピューテーション特論Ⅲ	1・2・3		2	
		コンピューテーション特論Ⅳ	1・2・3		2	
	必修科目	情報科学特別演習Ⅲ		1	3	
		情報科学特別演習Ⅳ		2	3	
		情報科学特別実験Ⅲ		1	3	
		情報科学特別実験Ⅳ		2	3	

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	
				必修	選択
システムデザインコース	電気・電子分野	電力・エネルギー特論Ⅲ	1・2・3		2
		電力・エネルギー特論Ⅳ	1・2・3		2
		プラズマエネルギーデザイン特論Ⅲ	1・2・3		2
		プラズマエネルギーデザイン特論Ⅳ	1・2・3		2
		電子デバイス特論Ⅲ	1・2・3		2
		電子デバイス特論Ⅳ	1・2・3		2
	機械設計分野	振動音響学特論Ⅲ	1・2・3		2
		振動音響学特論Ⅳ	1・2・3		2
		計算力学特論Ⅲ	1・2・3		2
		計算力学特論Ⅳ	1・2・3		2
		流体力学特論Ⅲ	1・2・3		2
		流体力学特論Ⅳ	1・2・3		2
		材料学特論Ⅲ	1・2・3		2
		材料学特論Ⅳ	1・2・3		2
	ロボット・メカトロニクス分野	知能システム特論Ⅲ	1・2・3		2
		知能システム特論Ⅳ	1・2・3		2
		ロボット工学特論Ⅲ	1・2・3		2
		ロボット工学特論Ⅳ	1・2・3		2
		応用メカトロニクス特論	1・2・3		2
		制御システム特論	1・2・3		2
	生産技術・人間工学・経営工学分野	人間工学特論Ⅲ	1・2・3		2
		人間工学特論Ⅳ	1・2・3		2
		経営工学特論Ⅲ	1・2・3		2
		経営工学特論Ⅳ	1・2・3		2
	必修科目	システムデザイン特別演習Ⅲ	1	3	
		システムデザイン特別演習Ⅳ	2	3	
		システムデザイン特別実験Ⅲ	1	3	
		システムデザイン特別実験Ⅳ	2	3	

別表第2 博士前期課程の修了に必要な修得単位数 (第14条関係)

1 修士論文の提出による場合

科目区分	修了に必要な修得単位数
必修科目	12
専攻共通選択科目	6
選択科目	12
合計	30

(注1) 必修科目は、所属するコースに配当された科目で修了に必要な修得単位数を全て満たすこと。

(注2) 専攻共通選択科目の修得単位数が6単位を超えた場合は、その超過単位数のうち4単位まで選択科目の修了に必要な修得単位数に算入する。

2 特定課題研究の成果による場合

科目区分	修了に必要な修得単位数
必修科目	12
専攻共通選択科目	6
選択科目	20
合計	38

(注1) 必修科目は、所属するコースに配当された科目で修了に必要な修得単位数を全て満たすこと。

(注2) 専攻共通選択科目の修得単位数が6単位を超えた場合は、その超過単位数のうち4単位まで修了に必要な修得単位数に算入する。

別表第3 博士後期課程の修了に必要な修得単位数 (第15条関係)

科目区分	修了に必要な修得単位数
必修科目	12
選択科目	8
合計	20

(注) 必修科目は、所属するコースに配当された科目で修了に必要な修得単位数を全て満たすこと。